

令和7年度 小中連携事業について

1 児童生徒の交流

(1) 小中学校の交流について

○各中学校合唱コンクールのリハーサル見学・・・令和7年10月17日（金）3校時

【内容】

小学6年生が、進学予定である中学校を訪問し、合唱コンクールのリハーサルを見学した。

本番に向けて真剣に練習に取り組む中学生の姿を小学生が間近で見ることができる貴重な交流の機会となった。

【成果】

①中学校生活への不安の軽減

実際の中学校行事を体験的に見学することで、校舎の雰囲気や中学生の様子を具体的にイメージすることができた。

「中学生は真剣に取り組んでいてカッコよかった」「思っていたよりも身近に感じた」といった感想が多く聞かれ、進学に対する不安の軽減につながった。

②学習・行事への意欲の向上

合唱に全力に取り組む中学生の姿から、努力することの大切さや集団で一つの目標に向かう姿勢を学んだ。

これにより、小学校での合唱活動や行事に対しても、「自分たちもあのように歌いたい」「中学校でも頑張りたい」という前向きな意欲が高まった。

③小中のつながりの実感

進学先の中学校を実際に訪問し、先輩となる中学生の姿を見ることで、小学校から中学校への学びと生活のつながりを実感することができた。

○各中学校の授業体験・・・令和8年1月16日（金）5・6校時

【内容】

中学校の入学説明会の際に、小学6年生を対象に体験授業を実施した。

川島中学校では、中学1年生と小学6年生が合同で保健体育の授業を体験した。授業では、中学生と小学生が混成のグループをつくり、体を動かす活動を通して学習を進めた。中学生が小学生をリードする場面も多く見られ、自然な形で交流が生まれた。

西中学校では、小学6年生が中学校教員による英語及び学級活動の授業を体験した。英語の授業では、簡単な英語表現を使った活動を行い、中学校の授業の進め方を知ったり、雰囲気を感じたりした。学級活動では、中学校生活に関わる内容を扱い、話し合いや説明を通して理解を深めた。

【成果】

①中学校の授業への理解の深化

実際に中学校の教員による授業を体験することで、授業の進め方や学習のレベルを具体的に知ることができた。

「授業のスピードが速いが分かりやすかった」「中学校の授業が楽しみになった」といった声が聞かれ、進学後の学習への見通しをもつことができた。

②主体的に学ぼうとする意欲の向上

中学生と一緒に学習したり、中学校教員の指導を受けたりする中で、小学生は自分も中学生になるという意識を高めた。その結果、学習に対する姿勢がより前向きになり、中学校生活への期待感が高まった。

③円滑な中学校生活への接続

授業体験を通して、中学校での人間関係や学習環境を事前に知ることができ、進学に対する不安の軽減につながった。

(2) 小学校間の交流について

○小学6年生顔合わせ・・・令和7年10月17日（金）4校時

【内容】

小中学校連携事業の一環として、小学6年生が進学先である中学校を訪問し、中学校の合唱コンクールに向けたリハーサルを見学した後、小学校間の交流活動として参加した小学校2校がそれぞれ自己紹介を行い、歌やダンス、ゲームなどを通して交流を深めた。

【成果】

①「同じ立場の仲間がいる」という安心感の醸成

別の小学校であっても、同じ6年生として同じ進路を控えている仲間がいることを実感し、進学を一人で迎えるのではないという心理的な支えにつながった。

また、初対面の相手と自然に関わる経験を通して、「新しい環境で関係をつくることは怖いことではない」という感覚を得ることができた。

②学校という枠を越えた帰属意識の芽生え

「自分の学校」だけでなく、「これから一緒に中学校生活を送る集団の一員」という意識が芽生え、視野が広がった。

最初は見学的・受動的だった児童も、発表や拍手、反応を通して場づくりに関わろうとする姿が見られ、集団の一員として行動する力が高まった。

学校規模や雰囲気の違いによる戸惑いを、交流の中で事前に体験することで、中学校入学後の環境変化をなだらかにする効果があった。

2 教員の交流

(1) 小中学校の交流について

○中学校教員の小学校訪問（西中から中山小・伊草小へ）・・・年間

【内容】

小中学校連携の取組として、中学校の教員が隔週で各小学校を訪問し、授業や学校生活における児童の様子を観察した。学習への取り組み方や生活面での様子、人間関係の状況などを把握するとともに、小学校教員との情報交換を行った。

情報交換では、児童一人一人のよさや課題、指導上の配慮事項、学級や学年の実態について共有し、中学校進学を見据えた共通理解を図った。

【成果】

①入学後を見据えた児童理解と切れ目ない指導・支援体制の構築

中学校教員が児童の実態を事前に把握することで、入学後の指導や学級経営に生かすための具体的な見通しを持つことができた。

小学校教員にとっては、中学校の視点や指導観を知る機会となり、進学を意識した指導や声かけを行う意識が高まった。

小中が連携して児童を支えているという体制が明確になり、円滑な中学校生活への移行を支える基盤が整った。

②指導の継続性と一貫性の支える教員間連携

小学校と中学校の教員間で継続的な情報共有が行われ、児童理解の深化と指導の一貫性の確保につながった。

③中学校への安心感の醸成

児童にとっては、中学校教員と関わる経験を通して、中学校を身近に感じるようになり、進学への不安軽減と安心感の醸成につながった。

(2) 町内全教員の交流について

○川島町公開授業研究会・・・令和7年11月27日（木）PM

【内容】

今年度より、町内小中学校の統一研究テーマとして「主体的に物事を捉え、自ら学ぶ児童生徒の育成一言語活動の充実をとおして一」を設定し、公開授業研究会を開催した。

公開当日は、公開校が全学級で授業を公開し、公開校以外の学校は午後を休校として、町内小中学校の全教員が公開校の授業を参観し、研究協議を行った。

町内小中学校の全教員が連携し、校種の枠を超えて授業づくりや指導方法、学校の雰囲気や児童生徒の様子について意見交換を行うことで、ともに学力向上および授業力向上を考える貴重な機会となった。

【成果】

①主体的に学ぶ力を育てる授業づくりへの共通理解の深化

統一研究テーマのもと、町内小中学校の全教員が同じ視点で授業を参観・協議することで、「主体的に物事を捉え、自ら学ぶ児童生徒」を育成するための授業の在り方について共通理解を深めることができた。

②小中の系統性を意識した指導の推進

小学校から中学校までの学びのつながりを意識して授業を参観・協議することで、指導内容や言語活動の積み重ねの重要性を再確認することができ、小中一貫した指導の充実につながった。

③町内小中学校の連携体制の強化

全教員が一堂に会して研究に取り組むことで、町内小中学校の一体感が高まり、今後の継続的な連携や協働的な取組を進める基盤づくりにつながった。